

大倉沢左俣(下降)

1983年8月27日

稜線には踏跡があった。もうかなり昔に刈り払いされたとみえ、その後のブッシュの成長の程はかなりのものがある。20分程この踏跡を進み、次の小ピークに達してから、12:30下降を開始する。

20分程やぶの中を下った所で沢筋にたどりついた。ワラジをつけて下りはじめる。すぐに8mの滝が出てきた。右岸を捲いて下る。こちらには小滝が結構出てきて、楽しい下りとなった。1本支流を合わせた分の滝は釜が大きく、胸までの激渉となった。あとの滝はほぼクライミングダウンする。

再び右手から支流を合わせた先で10m滝が2つ続く。最初のは流水を利用してクライミングダウンしたが、次のは下れない。結局ザイルを出して懸垂下降する。その先一部トイ状の流れとなる所もあったが、特に困難な所もなく、二俣に到着する。14時30分。

(記)

[タイム] 下降開始(12:30)→二俣(14:30)→下降終了(16:30)

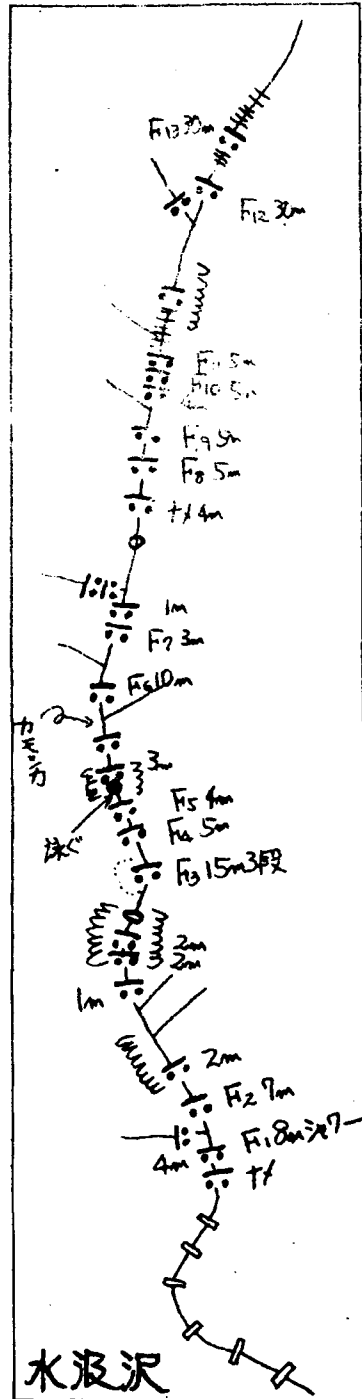
水汲沢 1983年8月28日

I

羊

水沼駅に車を置き出発。只見線の鉄橋下から6:50遡行開始。砂防ダムを6つ越えると小滝があり、すぐに8mのF1。最初からシャワークライムとなる。取り付きがやっかいだが、なんなく登る。すぐにF2。この「水汲沢」の名前の由来の滝。ここも直登。

しばらく進るとチョックストーン。ここは右を捲く。F3は三段の滝。あまりホールドがなく、木村さんが沢登りは初めてというので、左を捲く。結構キツイまきだった。



い釜をもった3m程の小滝が出てきた。右岸を登る。その少し先に、5mの滝があり、これは左岸を快速に直登する。ここで沢筋は明るくなり、最初のゴルジュは終わる。

小休止して再び歩きはじめるとすぐに第2のゴルジュである。最初の淵は右岸をへつるが、第2の淵で行き詰まる。距離にして5m程の部分が通過できない。覚悟を決めて水に飛び込み、泳いで通過。その上のC.S.滝を左岸から踏みどみに越え、第2のゴルジュも終了する。

しばらくは明るい沢筋が続く。相変わらず河原状なのだが、両岸には明るいスラブが目立ってくる。やがて第3のゴルジュ。ここも淵の通過が問題となった。右岸から越せそうな気がしないでもなかったが、どうせぬれついでだからと泳いで通過する。この上で二俣となった。

左俣の方が本流であり、水量も多いが、そちらは下降に使うこととして右俣に入る。最初はナメが続いてこれならと期待をもたせたのだが、あとが全くいけない。4mの小滝1個が出てきたのみで、源頭に達してしまった。

ゆっくりと昼食をとってから、稜線をめざす。右手上方にはスラブが見えていたので、左手の小尾根にルートを取り、12:05 稜線に出る。

【タイム】 大倉沢出合(8:05)→二俣(10:00, 10:20)→稜線(12:05)

